



図書館報 みかづら

和歌山県立医科大学図書館三葛館



目次

若い人へ -----	1	ある本との出会い -----	5
読書は思考の枠組みを変える -----	2	図書館 OPAC について -----	6
『あるきだした小さな木』のように -----	3	2005 年貸出ランキング ベストテン -----	7
Let's Try to Read Literature in English -----	3	平成 16 年度利用統計 -----	7
私が小児看護の世界に飛び込んだわけ -----	4	平成 16 年度三葛館活動記録 -----	8
本と私 -----	5	編集後記 -----	8

若い人へ

地域看護学 山田 和子

新しい年を迎え、気分を新たに勉強、実習、クラブ・・・とがんばっておられることと思います。

新たな世紀「21世紀」と言われていたのがつい最近のような気がします、早いものでもう2006年になりました。年々月日がたつのが早く感じられ、忙しくなるような気がします。それに伴って、専門以外の書籍を読むことが年々少なくなり、また、図書館でゆったりとした時間を過ごすことも少なくなってきました。現在はインターネットを利用した検索が進み、研究室に居ながら短時間で検索できるため、ますます図書館から足が遠のいてしまいがちです。

しかし、図書館や書店で自ら文献や書籍を探すことは、幅広いものの考え方や発想を身につけるために大変大事なことです。そこで、ここに私が日頃実践している書籍の探し方について述べてみたいと思います。

<その1> 身近な友人や同じ職種の人に聞きます。周りにいつも本を手放さない本好きの人がいませんか。そのような人と話していると、自分の専門だけでなく幅広い教養や知識が得られる書籍を紹介してくれたりします。身近なネットワークが役立ちます。

<その2> 新聞、専門書等の書評を読みます。私も時に書評を頼まれることがありますが、これは少ない分量で簡単だと思われがちですが、短い文章の中にお勧めどころを織り込みながらその内容を紹介するのは意外と難しいものです。そこで、どのように書評されているかだけでなく、誰が書評してい

るかも参考にして書籍を購入したりしています。

＜その3＞ 図書館や書店で探します。当てもなく、ふらっと図書館や書店に入り、本棚を見て回るのが好きです。最近では大きな書店へ行くと、看護関係の書籍のコーナーがあります。書籍の背表紙をずーっと見ていると、これまで気づかなかった書籍が、意外と目に入り、気に入ったりします。

＜その4＞ 学会開催中に開かれている書籍コーナーを見てまわります。学会の書籍コーナーには、その学会関連の書籍が多く並べられています。短時間に1カ所で専門に関する書籍を探することができる、さらに実際に手にとって見るができるという利点があります。学生時代は学会に参加することが少ないかもしれませんが、一度のぞいてみてはどうでしょうか。

これからはますます書籍や資料は自分の専門に近いものに偏りがちですので、新しい本や思いがけない本を発見するためにも、インターネットだけに頼るのではなく、図書館や書店を訪れてみてはどうでしょう。新しい発想をもたらしてくれる本が見つかるかもしれません。

読書は思考の枠組みを変える

西洋古典学 西村 賀子

感動を誘う物語、読了まで眠れない推理小説、じっくり味わう古典など、本もさまざまだ。それぞれに味わいや効用があるのだが、読書の醍醐味はものの見方や考え方を根本的に変える書物との出会いにある。人生に悩み、宗教を求める人もいれば、世をはかなむ人もいる。でも振り返ってみると、迷い多き私の人生を支えてくれたのは、それまでの思考枠組みに抜本的な変更を迫った本たちだった。

私たちのものの感じ方は私的で独自の、絶対的なものと感じられる。だが視点を人間の歴史や社会全体に広げてみると、時代や文化が異なれば、政治や経済や生活様式だけではなく感性や心性もまったく違うことがわかる。たとえば、子ども。かけがえのない存在という児童観は18世紀以降に生まれた近代的な認識であると、フランスの歴史家フィリップ・アリエスは『「子ども」の誕生』で看破した。近代以前の社会では子殺しや捨て子は今よりずっと頻繁で、古代ギリシアでも嬰兒遺棄が普通に行われた。自分の産んだ赤ちゃんをわざと死なせるなんて、と私たちは絶句せずにはいられない。だが荻野美穂『ジェンダー化される身体』によると、子殺しは古代には積極的善とみなされ、近代以前の社会でも必要悪として容認されていたという。

これはほんの一例にすぎない。このような歴史的変遷を知ることによって初めて私たちは自分の感性や価値観を時代の呪縛から解き放ち、人類史の中でそれらを相対化し、個別と普遍について問い直すことができる。それは現代を、社会を、人間を、そして自分を冷静かつ客観的に眺めることにつながる。

思考枠組みを揺さぶる刺激的な本はしばしば難解だが、頭の中にコペルニクス的転換を生じさせる。人間と社会を歴史的展望の中で客観的に考えさせる書物は人生の悩みを即座に解決してはくれないが、人間としての深さと奥行きを増すことはたしかだ。さしあたり斎藤美奈子の『紅一点論』を抱腹絶倒しながら読んでみてほしい。子どものときに読んだ伝記や見たアニメの像がきっと反転するだろう。

『あるきだした小さな木』のように

地域看護学 石井 敦子

まだ幼い頃、三方を高い本棚に囲まれた父の書斎にこっそり入り、ぎっしり詰まった書籍の数々を見上げては、子供心に大人っぽさを感じ、本への憧れと妙な安心感に包まれた記憶がある。私と本との長いお付き合いの始まりである。その後、いろんな本との出会いがあったが、一番、本と深くお付き合いしたのは高校3年生の頃。受験勉強もせずに、ひたすら本を読み漁っていた。単なる現実逃避だったのかもしれないが、今思えば、思春期の多感な時期の悩みや息苦しさから何かを捜し求めていたのではないだろうか。

さて、最近では、7歳の娘がクリスマスにお願いした「ステキな本を下さい」の願いを叶えるサンタクロースになった。選んだのは、私が幼い頃から大好きだったボルクマンの『あるきだした小さな木』（原題 LE PETIT ARBRE）というフランスの童話。チビッコの木が一本ずつ根っこを地から抜き、土をはらって歩き出し、パパ木ママ木と離れ、遠く旅をする。自由と独立を求めての旅である。そして、それは人間に対する興味と愛情から発したものだ。人が成長するという事は、自由や独立、そして愛情を求めて、その意味を考え、自分のものとする事ではないだろうか。そんな豊かな成長を願い、贈った本である。

我が子の成長を願うとともに、自分も成長しつづける人間でありたい。幼い頃の本に囲まれた安心感や思春期をともにした本の数々は、私の成長促進剤となったに違いない。自己の成長を願う限り、私と本とのお付き合いはこれからも続くだろう。

Let's Try to Read Literature in English!

高齢者看護学 大塚 静香

看護をにぎわす最新情報の多くが、看護関連の国際雑誌に発表される。看護学領域は、主として欧米で学問体系化されているという背景があり、理論はもちろん概念や用語そのものも英語による本や文献なしには真に理解することはできない。また、日本の看護系学術雑誌にも英文抄録が義務づけられ、国際学会発表、国際雑誌への投稿など、看護界にも急速なグローバル化が進んでいる。

ただ、残念ながら国際雑誌は英語で書かれている。日本語を母国語とする私たちが自由自在に読みこなすわけにはいかない。

うーむ、せつかくだが、あきらめるよりほかないか・・・

いやいや、そんなことはありません。英語のことわざにも“The game isn't over till it's over.”というではありませんか（何事も終わるまでは終わりではない＝決してあきらめるな）。

英語で書いてあるから読めない、とあきらめるのもひとつの方法である。だが、発想を転換して、英語で書かれた看護雑誌を読むことで看護学を勉強してやろうと考えるのも可能だ。状況に流されるのではなく、逆にとるのである。

というわけで、皆さんもグローバルな視点で看護を学んでみませんか。

Let's try to read the literature on nursing written in English!

私が小児看護の世界に飛び込んだわけ

小児看護学 北野 景子

今回、この原稿の依頼を頂いた時、私は人生の中でワースト5に入るぐらい悩みました。幼少の頃から読書はあまり好きではなく、2、3ページ読めばすぐに眠ってしまうという、いわば「本＝睡眠剤」という認識の私が何を書いたら良いのか、皆様に何を伝えることができるのか、本当に考えこんでしまいました。

しかし、そんな時私はあることを思い出しました。読書の苦手な私が、読んでも眠気に襲われず、無我夢中で読んだ本があったのです。それは、短大生の時に出会った本で、まさしく「小児看護を目指したい」と思わせてくれる本でした。『麻意ね、死ぬのがこわいの』という本で、そこには白血病に罹患した小さな女の子と家族の闘病生活が描かれていました。懸命に病氣と闘っている姿が頭に浮かび、読みながら涙したことを記憶しています。この本と出会ったことで、白血病に限らず、様々な病氣で苦しんでいる子どもや家族に対して何か私にできることはないか、一緒に喜びや悲しみを分かち合うことはできないかと思い、小児看護の世界に飛び込んだわけです。今でもその本は自宅の本棚に並んでいますが、何気なく購入した本であったのに今では大切な特別な本となっています。

この本との出会いがあったからこそ今の自分がいるのだと思います。今回この依頼を受けたことで、小児看護を目指す気になった当時の気持ちを思い出ことができました。また新たな気持ちでがんばれるような気がします。読書は苦手という方もいらっしゃると思いますが、私のように人生を左右させる本に出会えるかもしれません。苦手意識を振り払って、本を手にとってみませんか。

この号で紹介されている図書は三葛館に所蔵しています！ どうぞご利用ください。

- 『「子供」の誕生：アンシャン・レジーム期の子供と家族生活』 フィリップ・アリエス [著]；杉山光信，杉山恵美子訳，みすず書房，1980 [三葛館 一般 367.6||AR]
- 『ジェンダー化される身体』 荻野美穂著，勁草書房，2002 [三葛館 一般 367.2||OG]
- 『紅一点論：アニメ・特撮・伝記のヒロイン像』 斎藤美奈子著，筑摩書房，2001 [三葛館 一般 367.2||SA]
- 『あるきだした小さな木』 テルマ・ボルクマン作；シルビー・セリグ画；はなわかんじゃく，偕成社，1969 [三葛館 参考図書 E||V0]
- 『麻意ね、死ぬのがこわいの：死を問い生を見つめた少女』 石黒美佐子著，立風書房，1993 [三葛館 一般 914.6||IS]
- 『ガールズ・トラベラーズ・ファイル』 シリーズ 8冊 双葉社，2000-2001 [三葛館 一般 290.9||GA]
- 『ぼくのおじさんは、ハンセン病：平沢保治物語』 船橋秀彦，平沢保治作/たむらひろこ絵，全国障害者問題研究会茨城支部出版，1999 [三葛館 医学 498.6||FU]

本と私

看護短期大学部3年次生 宮本 紗貴

私が図書館に通うようになったのは短大受験を終えた高校3年生の頃のことです。時間ができたので、ふと図書館に足を運び、その雰囲気が好きになりました。短大に入学してからも図書館で勉強したり、いろんな分野の本を読んだりして、頻回に通ったものです。

三葛館には看護の本だけでなく様々な分野の本があるので、時間があるうちに、看護に限らずたくさん本を読むことをお勧めします。実習が始まると時間に余裕がなくなります。息抜きしたいときは『ガールズ・トラベラーズ・ファイル』シリーズなどがお勧めです。私は旅行が好きなのですが、忙しくて行けない時もこれを読めば、ひと時の旅行気分になれるので、このシリーズはほとんど読みました。

図書館の雰囲気が気に入って通い始めた私ですが、思い返せば、看護師を目指すきっかけとなったのも『マザー・テレサ』の伝記と出会ったことでした。小学生時代、読書感想文が苦手だった私が偶然にもこの本を手に取り、宿題のために半ば強制的に読まされたのですが・・・でも、読んでみて、とてもとても感動したのです！ 皆さんは、本を読むことで自分の考えや価値観が変わったことはありませんか？ 自分一人の人生の中で体験できることは限られているかもしれませんが、いろんな人が体験したこと、考えたことなど、本を通して一緒に体験することで、深みのある人生になるんじゃないかな、と私は考えています。これからも時間のある限り本を読んで、価値観を広げていきたいと思います。

ある本との出会い

付属病院 古川 裕子

私は小さい頃から本を読むのが好きでした。短大に入学してからもよく図書館に行っては、勉強に使用する本や漫画などいろんな本を借りました。その中で、ある本と出会いました。本の名前はど忘れしてしまったのですが、著者の方のお名前は平沢保治さんという方でした。熊本地裁で「らい予防法」違憲国家賠償請求訴訟の判決があり、原告側が勝訴したというニュースが大々的に報道されていた頃です。そのため初めは興味でその本を手にしたのだと思います。

ハンセン病については、名前は知っていたのですが、どのような病気かは知りませんでした。その本の内容は平沢保治さんの半生でした。私はそれを読み、本当に驚きました。ハンセン病に対する差別や偏見など・・・そしてそれが今もなお続いていることに驚きと悲しみを覚えました。私はこの本を読み、知識のないことほど恐ろしいことはないと感じました。ハンセン病のみならず、エイズなどさまざまな感染症について、正しい知識がないからこそ差別や偏見が生まれるのだと思います。

私たちは職業柄様々な疾病を持つ患者さんと接します。だからこそ、本を読み正しい知識を得ることが大切だと思います。3年生の方は卒業試験や国家試験の勉強で忙しいかと思いますが、息抜きに読書をされてみてはどうでしょうか？ 意外とその本で得た知識が役立つかもしれません。寒いですが体調に気をつけて頑張ってください。

図書館 OPAC について

2006年1月より図書館ホームページ内のOPACに、これまでの蔵書検索機能に加え、マイライブラリという個人用ポータル機能が追加されました。利用状況の確認や登録したキーワードに対する新着図書情報の閲覧、貸出中資料の予約等が1回の利用者認証で行えます。保健看護学部および看護短期大学部に所属している方でまだパスワードを設定していない方は三葛館カウンターにて登録手続きをしてください。



三葛館のホームページ

<http://opac.wakayama-med.ac.jp/mikazura/>

2005年 貸出ランキング ベストテン

順位	資料名	著者名	出版社名, 出版年	三葛館 請求記号
1	褥婦/新生児/婦人科疾患 改訂版(看護観察のキーポイントシリーズ. 母性:2)	前原澄子編集	中央法規出版, 2000	N300 BO 2
2	妊婦/産婦 改訂版(看護観察のキーポイントシリーズ. 母性:1)	前原澄子編集	中央法規出版, 2000	N300 BO 1
3	実習に役立つ母性看護技術 改訂版	大井伸子 [ほか] 著	星雲社(発売), 2003	N340 OO
4	産褥・新生児(母性看護学:2)	今津ひとみ[ほか]編著	医歯薬出版, 1995	N300 BO 2
4	ロイ適応看護論入門	ヒーサー A. アンドリュース, シスター C. ロイ著	医学書院, 1992	N110 A
6	母性看護(看護必携シリーズ:11)	常木長和[ほか]編集	学研, 1993	N300 TS
6	周産期の看護技術: カラー写真で学ぶ	櫛引 美代子著	医歯薬出版, 1998	N340 KU
8	成長と発達的一般原則・バイタルサイン・運動機能の障害・食事・栄養・水分出納 改訂版(看護観察のキーポイントシリーズ. 小児:1)	桑野タイ子編集	中央法規出版, 2000	N400 SH 1
8	妊娠・分娩(母性看護学:1)		医歯薬出版, 1994	N300 BO 1
8	ベナー看護論: 達人ナースの卓越性とパワー	パトリア ベナー著	医学書院, 1992	N110 BE



平成16年度 利用統計

年間開館日 236日
 入館者数 30,840人 (入館者数カウント装置故障の2か月分除く)
 (1日平均 164人)
 貸出人数 4,109人
 図書貸出冊数 11,022冊
 視聴覚資料貸出件数 531巻
 相互利用依頼件数 104件
 学外利用者数 583人

平成16年度(2004年度)三葛館活動記録

- 4月7日 新入生オリエンテーション
- 4月19日 日本看護図書館協会第14回総会(聖母大学:東京)
- 5月13日 第1回保健看護学部図書委員会
- 5月27日 日本看護図書館協会第1回「看護と情報」編集委員会(大阪市立大学)
- 6月4日 保健看護学部3年次生「保健看護研究I」文献検索指導
- 6月9日 第2回保健看護学部図書委員会
- 6月17日 第1回図書館委員会
- 6月22日 県立高等看護学院助産学科文献検索演習(本学)
- 6月29日 株式会社リコー図書館システム説明会(スイスホテル南海大阪)
- 7月1日 日本看護図書館協会第2回「看護と情報」編集委員会(大阪市立大学)
- 7月2日 第1回図書館システム導入打ち合わせ
- 7月14日 第3回保健看護学部図書委員会
- 7月23日 第2回図書館システム導入打ち合わせ
- 7月29~30日 日本看護図書館協会第32回研究会(東京衛生学園専門学校)
- 8月9日 日本看護図書館協会第3回「看護と情報」編集委員会(大阪市立大学)
- 9月1日 第4回保健看護学部図書委員会
- 9月3日 第3回図書館システム導入打ち合わせ
- 9月27日 平成16年度和歌山県保健師助産師看護師等実習指導者講習会(本学)
- 9月29日 平成16年度和歌山県保健師助産師看護師等実習指導者講習会(本学)
- 9月29日 第5回保健看護学部図書委員会
- 10月1日 第4回図書館システム導入打ち合わせ
- 10月7日 第5回図書館システム導入打ち合わせ
- 10月15日 第6回保健看護学部図書委員会
- 10月16日 日本看護図書館協会第3回新人研修会(京都市立看護短期大学)
- 11月2日 第6回図書館システム導入打ち合わせ
- 11月8日 看護短期大学部2年次生第1回文献検索ガイダンス
- 11月9日 日本看護図書館協会第4回「看護と情報」編集委員会(大阪市立大学)
- 11月15日 看護短期大学部2年次生第2回文献検索ガイダンス
- 11月22日 看護短期大学部2年次生第3回文献検索ガイダンス
- 11月25日 第7回図書館システム導入打ち合わせ
- 12月7日 日本看護図書館協会第5回「看護と情報」編集委員会(大阪市立大学)
- 12月14~16日 図書館システム導入研修/閉館
- 1月10日 日本看護図書館協会第8回「看護と情報」編集委員会(大阪医科大学)
- 1月19~21日 国立情報学研究所平成16年度学術情報リテラシー教育担当者研修(大阪大学)
- 2月2日 日本看護図書館協会第10回「看護と情報」編集委員会(大阪医科大学)
- 2月10日 日本看護図書館協会第11回「看護と情報」編集委員会(大阪医科大学)
- 2月28日 日本看護図書館協会第12回「看護と情報」編集委員会(大阪医科大学)

編集後記

2004年12月に導入した新図書館システムで、年間貸出ランキングを出しました。数年前には看護を題材にした漫画がランクインしていたのに対し、現在はベスト20までも看護の技術書や理論書が占めています。この背景には、一部領域の出版点数の少なさ、課題や実習内容の傾向、看護学の体系化などがうかがえます。このようなデータを基に、蔵書構成やサービスのあり方を模索し、期待される図書館となるよう努めていきたいと考えています。(J.S.)

~~~~~

平成18年1月31日発行  
図書館報 みかづら(第9号)  
発行 和歌山県立医科大学図書館三葛館  
〒641-0011 和歌山市三葛580番地  
TEL (073) 447-2300(代表)  
(073) 446-6721(三葛館)  
FAX (073) 446-6730(三葛館)

~~~~~